

次期「府民躍動 雇用応援★夢プラン」策定に係る 第3回検討会議 結果概要

1 日 時 令和7年11月6日（木）10時～12時

2 場 所 京都経済センター 6-B会議室

3 出席者 渡辺誠座長、アンナ・クレシェンコ委員、上田清和委員、浦坂純子委員、杉岡秀紀委員、鈴鹿可奈子委員、富田キアナ委員、濱田祐太委員、原敏之委員、村田淳委員
オブザーバー：渡部愛氏、真鍋隆浩氏

4 府議会での意見およびパブリック・コメントの結果について

事務局から説明

5 「京都府人材確保・多様な働き方実現プラン（仮称）」（最終案）について

事務局から説明

6 主な意見

＜施策の内容について＞

- ・大学・産業界と連携しながら、大学で4年間学んだ後、京都企業への就職に直結する仕組みづくりを行う必要がある。
- ・大学生だけでなく、高校生の府内就職率も他府県と比べて低いため、教員と生徒に、地元企業の魅力が伝わるような取組を引き続きお願いしたい。
- ・有償インターンシップやアルムナイ制度導入促進などの取組によって、一度京都を離れた人に戻ってきてもう流れができるとよい。ワーケーション型インターンシップも人材不足の解消に有効な施策と思われる。
- ・京都を一旦離れてもUターンで戻ってきてもらえるよう、京都の魅力を学生に伝える必要がある。
- ・企業目線では、中小企業の人材確保が大きな課題となっており、丁寧な施策をお願いしたい。
- ・ものづくり産業になかなか人が集まらない現状がある。ものづくり産業で働く人をいかに育成し、いかに地域で働いてもらうか、ということを考えていく必要がある。
- ・非正規雇用の就職氷河期世代への支援については、働く人を増やすための施策として、無視できないと思う。
- ・従来の画一的な障害者雇用のモデルでは、近い将来回らなくなってくると思う。特に中小企業では大企業とは異なる就労モデルが必要となるため、画一的な訓練ではなく、企業を支えるためのコンサルテーション、出資、ジョブコーチングなど、オーダーメイド型の支援が適切と思われる。
- ・法定雇用率の引き上げについては、中小企業への啓発を強化していく必要がある。
- ・外国人への就労支援については、職場だけの問題ではなく、暮らしのフォローが必要である。

- ・リモートワークを活用した「北部地域ふるさと住民（仮称）」について、単に在宅でリモートワークを行うだけでなく、京都市内に北部人材がリモートワークを行うためのサテライトオフィスを設けることで、新たなコミュニティが生まれ、モチベーションや継続性につながるのではないかと思う。
- ・現場では、リモートワークができるホワイトカラーの人材よりも、実作業のできる人材の確保が重要なケースが多く、そういう人材の価値が今後高まっていくと思う。こうした状況を踏まえたうえで、研修などの機運醸成に取り組むことが重要になってくると思われる。
- ・兼業・副業の推進については、公共セクターで率先して取り組むべき。

<用語について>

- ・近年では、あまり「ベンチャー」は使わないため、「スタートアップ」も追記すべき。また、近年では、あまり「IT」は使わないため、IT就労支援センターは、「ICT」もしくは「DX」就労支援センターと記載すべき。
- ・IT就労支援センターについて、「就労困難者（発達障害）のIT業務への就労を推進」となっているが、発達障害者だけではなく、視覚障害者や肢体不自由者等、他の障害者も対象ではないか。

<KPIについて>

- ・「北部地域の人材確保プロジェクト」が重点労働施策の一つとなっていることを踏まえると、北部地域のKPIがあつた方がよい。
- ・人材のシェア率など、兼業・副業のKPIがあると、先進的な切り口になると思う。
- ・人材の流動性が高い時代なので、「府内大学生の府内企業就職率」のKPIにこだわる必要はないと思う。いつか京都に戻って京都で働くという、より中長期的なデータを蓄積できるとよい。
- ・「リカレント・リスキリング実践成果者数」、「IT・DX人材の育成者数」のKPIについて、昇進や転職につながったか、というところまでカウントできるとよいが、現実的には難しいと思う。
- ・「障害者雇用率」のKPIについて、現行計画から目標数値が引き上げられているが、現行計画の目標も達成できていないことを踏まえると、達成は難しいのではないか。
- ・「職場づくり行動実践企業数」のKPIについて、職場づくりが時代に合わせて継続的に行われているかどうか、長い目で、フォローしていく必要がある。
- ・定量的な数値だけでなく、満足度調査や、対象となった方に集まってもらって、振り返りを行う機会を設けるなど、数値に表れない定性的な効用も見ていくべき。
- ・集計方法が恣意的になってしまふと、KPI数値が意味を持たないものになてしまうおそれがある。
- ・実績数値については、言葉の定義や変数の設定の仕方によって大きく変わってくることに留意する必要がある。
- ・ほかの都道府県の同様の計画を見ると、ほとんど同じような指標になっている。京都独自の重要な課題があるはずで、はじめにどんな京都にしたいかというアイデアがあって、それに関連付ける形でそれぞれの項目を決めていくのもやり方の1つだと思う。